

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (九州)	◎	－	－	－
	○	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・夏のボーナス時期で、自分自身への御褒美としての需要が見受けられる。
	○	百貨店（企画担当）	販売量の動き	・国内消費、インバウンド売上共に3か月前よりも旺盛になっており、販売量が増加している。カテゴリーやブランドのランクを問わず売上が伸びている。
	○	百貨店（経営企画担当）	それ以外	・売上の前年比は、3月95.5%、4月97.5%、5月104.9%、6月25日時点100.8%となり、足元ではやや回復の兆しがみられる。
	○	乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・注文停止車種の注文再開に伴い、来客数が多くなっている。
	○	タクシー（統括者）	販売量の動き	・乗務員採用数が過去最高で好調であり、その分提供できる車両数が増加している。
	○	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・理由ははっきりしないが、情勢に明るい雰囲気がある。
	□	商店街（代表者）	販売量の動き	・商店街全体の売上も前年より少し上がっており、来街者数も堅調に維持されている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街では、現在再開発中のため一部の店舗が秋に入店予定だが、全体がそろわず商店街としてまとまりがなく、売出しなどができる状態ではない。
	□	商店街（代表者）	販売量の動き	・販売量の動きが良くも悪くもなく、この3か月売上が上がらない。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・3か月前の悪い状況が継続している。来街者数も少なく、客の買い控えや節約志向が見受けられる。
	□	一般小売店〔精肉〕（店員）	それ以外	・特段変わりはない。
	□	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	お客様の様子	・株価急騰で世の中の景気は少々回復しているようにみられるが、毎月数件の大型店の倒産も耳にする。近隣店舗でも毎月の売上は厳しい状況と聞いている。当店でも物価高騰で客の買い控えにより購入金額も抑えられているため、売上にはつながっていない。
	□	百貨店（経理担当）	販売量の動き	・物価高の影響もあり、依然として衣料品全般の売上が良くないが、生鮮食品や催事、インテリア関連は好調である。インバウンド関連では、時計の売上が好調な一方で、化粧品売上が苦戦している。
	□	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・5月末を期限としたプレミアム付商品券の駆け込み需要もあり、前月末までは客の買物に勢いがあった。しかし、今月に入り前年と比べても少し弱い動きとなっている。また、雨に対する警報が多く、これまで以上に客の外出は減っている。
	□	スーパー（店員）	お客様の様子	・勤務しているスーパーは高齢者の比率が高く、客のなかでも特に高齢者から割安商品の案内を依頼されることが多い。
	□	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・前年と比較すると雨天が多くなっているため来店頻度が下がっているが、販売量が前年を上回っている状況から、景気は変わっていない。
	□	スーパー（従業員）	来客数の動き	・来客数の大きな増減はなく、横ばいである。
	□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・物価対策のプレミアム付商品券等により、物価高の影響は若干緩和されている。
	□	コンビニ（エリア担当・店長）	お客様の様子	・本部推奨のフライヤーセールの際には一時的に来客数が増えるが、終了すると来客数の戻りが早く、客は単価に敏感になっている。
□	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・中東情勢が落ち着くまで時間が掛かり、景気そのものも変わらない。	
□	衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・前年より早くクリアランスセールがスタートしたが気温が上がらないため、一般客の買い回りが少ない。	
□	衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・3月と比べると、また、円安が加速している。様々な介入で一時的に落ち着いたようにみえたが、根本的な解決に至っておらず、景気が良くなる材料はない。今月も控えめの消費動向となっている。	

□	家電量販店（店長）	お客様の様子	・気温が低いため季節商材の売行きが鈍化しているが、他の商品も購入する動きがない。季節要因を考慮しても前年を大きく下回っている。
□	乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・新型車の販売が好調に推移しているため、景気がやや良くなっている。
□	住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・今月も値上げの情報はあるが、来月から大手メーカーの大幅な値上げがあり、今月は駆け込み需要で売上が増加している。
□	その他専門店 〔コーヒー豆〕 （経営者）	お客様の様子	・来客数は前年との比較で横ばいである。値上げの影響により客単価が上向いているが、購入量は変わらないため、ほぼ横ばいを保っている。
□	その他専門店 〔書籍〕（副店長）	販売量の動き	・移転前のセールで当月の店舗売上は上がっているが、身の回りの景気に関しては変化はみられない。
□	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕 （統括者）	販売量の動き	・原価への価格転嫁が限界になってきた。
□	観光旅館組合（職員）	来客数の動き	・インバウンドは増えているが、国内旅行者が減っているため、来客数は前年と変わらない。
□	観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・梅雨に入ったため、個人客の動きが鈍くなっている。
□	旅行代理店（統括者）	販売量の動き	・依然として前年比の受注状況が3か月前から変化しておらず、来客数に関しても大きな変化はない。
□	旅行代理店（統括者）	お客様の様子	・中東情勢は一段落しそうだが、今後も原油価格が変わらない限り、変化はみられない。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・昼間の売上はよい状態を維持しているが、夜の売上が減少している。主な要因としては、仕事終わりの飲み会が激減していることが挙げられる。
□	タクシー運転手	お客様の様子	・雨が多く、夜間利用が伸び悩んでいる。
□	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・今年度当初の保守契約や引き合いは一巡し、全体として落ち着いた動きとなっている。一方で、自治体向けでは大型公募案件が幾つかみられ、民間企業では新規商談や情報交換が継続しており、案件化までに時間を要する状況が続いている。販売量は前月と比べて大きな変化はなく、横ばいで推移している。
□	通信会社（役員）	お客様の様子	・顧客の購買意欲に大きな変化はみられないが、食品や身の回りの生活必需品の値上げが着実に家計に響いている。
□	美容室（経営者）	販売量の動き	・景気は相変わらずで、横ばいが続いている。美容業界では、夏に向かい夏枯れの傾向にあり、客の動きが悪くなっている。新製品が出れば状況に変化はあるが、客に対してインパクトがないため、暑い時期は景気回復が難しく、横ばいであればよいと考えている。
□	美容室（店長）	来客数の動き	・来客数は余り変化がないが、節約志向になり客単価が上がらない。
□	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	それ以外	・6月の介護報酬臨時改定に伴う賃上げ財源の確保により、一定程度のベースアップが可能となるため、厳しい採用環境下で若干の好転が見込まれる。
□	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・客の動きに大きな変化はないが、みらいエコ住宅2026事業の公募期間中は現状が続く。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・ゴールデンウィーク後は売上が低迷しているが、近隣の同業が閉店したため新規の客が増え、前年より売上はある。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・毎月の生活必需品の物価上昇により、客の来店頻度や購入点数、購入単価が減少している。更なる値上げに備えて消費を控えている。
▲	商店街（代表者）	販売量の動き	・3～4月にかけて売上が動いていたが、5月に入り売上が一気に落ち、ゴールデンウィークが終わると一層落ち込みがひどくなっている。食料品など物価が上がるため、当店で取り扱っている衣料品には節約をしている。インフレになり購買力は落ちている。

▲	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・食料品やエネルギーの値上げが続き、客の消費動向がやや悪い。
▲	百貨店（営業企画担当）	お客様の様子	・物価高の影響により、富裕層と経済的負担が増加している一般層との間で、格差が拡大している傾向は続いている。価格高騰により、一般層の支出の負担が大きくなり節約志向が増加することが全体を引き下げる要因となっている。
▲	スーパー（店長）	来客数の動き	・中東情勢により物価高騰に歯止めが利かない状況が続き、生活防衛意識は高止まりしている。前年は備蓄米の販売などもあり前年からのかい離は大きく、直近の来客数の前年割れが深刻である。
▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・単価上昇が続き、消費者は生活必需品の購入を優先するため、それ以外の購入を抑制している。具体的に、食料品が優先で衣料品や住居関連は控えている。
▲	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・物価高に対して、消費は来客数や買上点数と共に前年を下回って推移している。
▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数減少を客単価でカバーをする状況が続いていたが、ここに至り、来客数減少が客単価を上回り始め、売上減少に転じ始めている。
▲	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・物価が高いため、売上がやや落ちている。
▲	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・節約志向が強く、まとめ買いが減少しており、ディスカウントストアに流れている。そのため、主力商品の米飯、ドリンク類の販売減少が顕著である。
▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・米飯のうち、手巻きおにぎりの売上が激減している。考えられることは、商品単価に対する買い控えで、中東情勢や原材料の値上げで以前より2倍近く単価が上昇したことが要因とみられる。
▲	コンビニ（店長）	販売量の動き	・物価高や世界情勢などで財布のひもが固くなっている。
▲	衣料品専門店	販売量の動き	・セールが始まるまで買い控えが発生している。
▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・5月はエアコンの省エネ基準改定を控えた特需で売上が伸びたが、6月はその反動から非常に苦戦している。他の商品の売上も厳しく、7月も予断を許さない状況が予測される。
▲	家電量販店（従業員）	来客数の動き	・前年の6月からの猛暑に比べ今年の6月が涼しかったため、来客数が2割ほど減少し、売上も減少している。
▲	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・前月に引き続き受注台数が激減している。
▲	住関連専門店（従業員）	来客数の動き	・物価高の影響もあり、マットレスや掛布団などの買換え需要が落ち着いている。
▲	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・周辺を含め販売量が下向いている。販売量と単価が直結しており、販売数を増やしたいために単価を下げている傾向があり、今月はイベントが少ないことも要因となっている。
▲	旅行代理店（職員）	販売量の動き	・国内バスツアーが不調である。
▲	観光名所（従業員）	それ以外	・天候の悪い日が多いため、来館者数が減少している。
▲	観光名所（職員）	来客数の動き	・梅雨に入り、来客が鈍い。
▲	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・4月からの雨による入場者数の減少で、近隣のゴルフ場の割引が加速していて、天候不順もあり予約のキャンセルが目立ってきている。
▲	設計事務所（代表）	単価の動き	・ナフサ不足や金利上昇による価格上昇の影響により、若干売上が悪くなっている。
▲	住宅販売会社（従業員）	それ以外	・株価が史上最高額で更新が続き、高値で安定していることや円安の継続、日本銀行の利上げ等の状況にあるものの、一般消費者への影響はなく、一般生活の賃金が上がらない限り景気は良くならない。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・ほとんどの材料が値上がりし、特に衣料品関係は厳しくみられる。

	×	一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・花屋では6月は株主総会で就任祝い等はあるが、3か月前の卒業式や異動シーズンの花の需要に対してはかなり少なくなっていたため、景気は悪くなっている。
	×	スーパー（経理担当）	来客数の動き	・既存店で来客数が前年比97.8%となっている。イラン情勢による値上げと前年に比べて雨天が増えたことが影響している。
	×	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	来客数の動き	・前年同期の映画館ではヒット作品が盛り上がり始め、核テナントである店舗では、ゲーム機や備蓄米により高稼働と湧いていたため、今年は苦戦している。また、2025年末から続いていたトレンド商品の特需が陰りを見せており、客単価はインフレの影響により伸長傾向にあるが、来客数はやや厳しい印象を受ける。
	×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・景気は下向いている。予約が予想より入らず、前年度の同時期と比べても少なくなっている。
	×	設計事務所（所長）	単価の動き	・中東情勢の影響により材料や製品の入手が滞っている上に単価も高止まりしている。特に地方の中小企業や個人事業主においては、生活必需品の単価は上がっているが、仕事の対価である人件費は上がらず、収入も増えていない。
企業動向関連 (九州)	◎	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較すると、主要取引先からの受注が増加している。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・取引先からの引き合いは依然として強く、原材料価格の高騰などが気掛かりである。
	○	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	取引先の様子	・取引量が以前と比べ若干増え、ラインの増設など今後に向けた設備投資がみられる。
	○	金融業（経営者）	それ以外	・ここ数か月マイナスで推移していた会員数が上向きに転じている。
	○	広告代理店（役員）	受注量や販売量の動き	・国や自治体の補助金の効果が現れている。
	□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・5月が予想より悪く、6月は時期的にももっと厳しくなると覚悟していたが、ふたを開けてみると意外に販売面は順調で、このままでいけば年度計画はクリアできそうである。しかし、生産面では中東情勢の影響等により資材価格の高騰など厳しい局面を迎えつつある。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体関連市場の受注には活況の様子があるものの、その他の市場には改善の様子がみられない。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	それ以外	・受注量そのものは依然と変わらない状況だが、供給される材料の中で特にプラスチック類の部品の入荷が非常に悪く、それにより実際の工場の動き、受注、販売の数字が左右される状態が続いている。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・中東情勢による取引先への影響に大きな変化はない。
	□	金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の中小企業は、全体的にコストアップへの対応で精一杯となっている。利益水準も低下傾向にあり、停滞している状況に変わりはない。
	□	不動産業（経営者）	それ以外	・同業他社の様子も状況に変動がない。
	□	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先の業況には、大きな変化がない。
	□	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・この数か月ダイレクトメールの配布を行ってきたが、その結果はほとんど効果がない状況である。
		▲	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き
	▲	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・続く物価高の影響もあり、物量が例年より減少している荷主がある。運送会社からは値上げ要請が相次ぐが、荷主も人件費高騰など苦しい状況で価格転嫁は容易ではない。

	▲	金融業（調査担当）	取引先の様子	・企業の業況判断は業種を問わず悪化傾向で、中東情勢の混乱による影響が深刻化している。住宅市場では、住宅価格と金利の推移を見ながら慎重に物件を見定め、借入れのタイミングを見極めようとする購入希望者の動きが強まっている。
	▲	金融業（営業）	取引先の様子	・物の値上がりが急激過ぎる状況である。元々物価上昇していたところに石油由来製品の極端な品薄が発生している。また、企業は値上がり前の駆け込み需要により在庫を積み増していることも考えられる。
	▲	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・当社の売上は、前年比及び前月比もマイナスとなっている。国際情勢は予断を許さない状況が続いており、石油が入らない影響により様々な物資の価格高騰が継続し、3か月前から比較すると景気はやや悪くなっている。
	▲	経営コンサルタント（社員）	受注価格や販売価格の動き	・値上げ品目が増え、最低限必要な物以外は買い控えが進んでいて節約傾向にある。
	▲	その他サービス業 [コンサルタント]（代表取締役）	取引先の様子	・市町村の福祉や行政計画策定の支援業務を受託している。今年度は、3年ごとの計画策定年度であり、市町村からの発注が多いと考えていたが、市町村によっては、高齢者と障がい者福祉の計画と併せて、プロポーザルで業者選定するケースが多く、発注金額も1000万円前後と金額が高くなっている。このため、受注できる業者は全国に支店がある大規模業者が選定される傾向にあり、受注できる機会が減少し、景気はやや悪い状況になっている。
	×	農林水産業（従業者）	受注量や販売量の動き	・野菜については、ゴールデンウィーク後の価格低迷で、多くの農家が九州の主力である冬春野菜の生産を、初夏を待たずに終了してしまっている。ここに来て全国的な曇天が7月中旬まで続く見込みのため、野菜不足が懸念される。
	×	繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・海外の生産量を増やしているため、国内の工場に十分な量が確保できていない。ビニール関係、スプレー缶関係など十分に手配できていない上、値上げされている。
雇用 関連	◎	—	—	—
	○	*	*	*
(九州)	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・前年と比較して横ばいの推移が続いている。
	□	新聞社 [求人広告]（社員）	それ以外	・依然として物価は高止まりで、燃料や原材料の不足で、好景気への材料が見いだせない。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・中東情勢に伴う原材料価格の高騰や調達への不安等が事業所へ影響することが懸念される。一方で、求人数は直近3か月は前年比を増強しているため、雇用状況が悪化しているとはいえない。
	□	学校 [大学]（就職支援業務）	求人数の動き	・2027年3月卒業予定の大学生や大学院生を対象とした大卒求人倍率は1.62倍と2026年卒の1.66倍から0.04ポイント低下したが、企業の採用意欲は引き続き堅調に推移している。大企業では、より即戦力を求めて新卒採用を絞る企業もある。一方、中小企業を中心に採用活動に苦戦しているところが多く、7月以降も継続して採用活動を行う企業も多い。
	▲	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は全体的に弱含みで推移し、企業側は採用や人員補充に慎重な姿勢がみられる。特に長期案件については動きが鈍く、短期、スポット案件が中心となっている。
	▲	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・契約終了のスタッフ後任について、補充しない企業が多い。6月は10人終了し、7月については更に14名終了であるが後任なしの予定である。通常であれば後任を入れる体制を取るが、在籍している人員で対応する体制へ変わっている。
	▲	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求職者の動きが悪く、新規の登録者数が伸び悩んでいる。事務関係の求人に関しては、企業側に採用意欲はあるものの、求職者の条件とあわず稼働開始に結び付かない。

▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハローワークでも来所者が多い状況が続いている。一方で、新規求人数は減少傾向で、企業の採用姿勢は慎重である。人手不足は依然として続いているが、宿泊、飲食などでは外国人労働者の比率が高まり、以前多かった高齢者パートとの構成が変化している。求人数の減少と求職者数の増加が同時に進むなど雇用形態のミスマッチが生じており、景気はやや弱含みになっている。</li> </ul>
▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求人数が減少傾向となっており、求人を控える要因に最近の物価高騰や中東情勢を挙げる企業が見受けられる。</li> </ul>
▲	学校〔専門学校〕（就職担当）	周辺企業の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当県の中小IT企業の多くは、仕事量やAIの活用により大手企業からの仕事が減っている。</li> </ul>
×	—	—	—